

専門部会報告書

「こうのとりのゆりかご」の運用状況の検証に関する報告（NO. 41）

（検証対象期間：令和元年10月1日～令和2年3月31日）

平成19年5月10日に慈恵病院が設置した「こうのとりのゆりかご（以下、「ゆりかご」という。）」の令和元年度下半期における運用状況の検証結果について、次のとおり報告する。

1 違法性の検討について

上記対象期間の慈恵病院の「ゆりかご」の運用体制に刑法上の「明らかな違法性」は認められない。

一方で、保護者の預け入れ行為については、保護責任者遺棄とも評価されうる危険な状態で置かれた事例があった。

子どもの権利を侵害しないように、今後も本部会において個別の運用状況を継続的に検討する必要がある。

2 許可時の留意事項の遵守状況について

（1）子どもの安全確保

対象期間中、特に問題の発生は確認されていない。

① 設備の保守点検は、適正に行われていることが「保守点検表」に基づき確認された。

② 病院及び熊本市関係職員による会議は、適切に開催され運用に関する各種連絡・調整が図られている。

（2）相談機能の強化

「ゆりかご」はできるだけ使われないことが望ましく、事前の相談で支援につなげることが本来の目的である。慈恵病院が設置された「SOS赤ちゃんとお母さんの相談窓口」には、10月～3月に合計3,193件の相談が寄せられている。また、毎月カンファレンス会議を開催し、相談員の情報の共有化を図るなど、病院としての相談業務に取り組まれている。

（3）公的相談機関等との連携

「ゆりかご」の運用に関する公的相談機関等との連携については、警察への通報、児童相談所・市への通告及び情報公開のあり方も含め、適切に対応されている。

3 現時点での検証評価

以上のとおり、慈恵病院の「ゆりかご」の運用体制に刑法上の「明らかな違法性」は認められず、また、許可時に付した上記記載の3つの留意事項についても遵守されている。

一方で、保護者の預け入れ行為については、子どもが、ゆりかごの扉の中ではない

場所に置かれていたため、当時の環境下において、低体温となる危険な状態での預け入れ事例があった。

今後も引き続き「ゆりかご」の運用状況の検証を継続する必要がある。

4 第55回熊本市要保護児童対策地域協議会「こうのとりのゆりかご」専門部会  
（令和元年11月5日開催）で述べられた主な意見

・通常、生まれた子どもが早産や胎児発育不全等の時には、保育器管理または新生児集中治療室等で経過をみるのが一般的とされる状態であり、出生時の母児のリスクや、今後の子どもの育ちへの影響が心配される。

・出生後の手続きについて、預け入れ者の希望は理解するが、子どもの出自を知る権利等については出来るだけ保全しておくことが必要であるため、実親子関係を大事にしながら、子どもにとって何が大きかを考えて対応を行うべき

○第57回 熊本市要保護児童対策地域協議会「こうのとりのゆりかご」専門部会  
・開催日時：令和2年（2020年）9月1日（火）13：30～16：15  
（委員名簿）

氏名	役職	備考(分野)
山縣 文治	関西大学 人間健康学部教授	児童福祉
国宗 直子	弁護士	法律
上村 宏淵	熊本県養護施設協議会会長 (福)龍山学苑理事長	福祉施設
安部 計彦	西南学院大学 人間科学部社会福祉学科教授	児童福祉
岩井 正憲	熊本大学病院 総合周産期母子医療センター講師	小児科
城野 匡	熊本学園大学 社会福祉学部教授	精神科